

みんなで考える厚岸町の10年後 夢が広がるまちづくりワークショップ 結果報告書（第2回）



厚岸町

目的

平成22年度に策定された第5期厚岸町総合計画が、平成31年度をもって終期を迎えます。

総合計画とは、厚岸町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に町民の意見は欠かせません。

本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、町民の方々のご意見を広く反映すべく開催するものです。

10年先を見据え、これからの厚岸町をよりよく発展させるべく、ワークショップで生まれた町民の方々のご意見を検討し、その中から、新たに策定する厚岸町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

第2回となる今回のワークショップでは、「保健・医療、地域福祉、高齢者福祉、障がい者（児）福祉、子育て支援、社会保障」の分野について、意見交換を行いました。

概要

- 日 時：平成30年10月20日（土） 14：00～16：00
- 場 所：保健福祉総合センター（あみか21）1階 検診スペース
- 対 象：厚岸町民
- 主 催：厚岸町
- グループ：5グループ（計30名）
- テーマ：やさしさあふれ健やかに安心して暮らせるまち厚岸

A班

現状や実体験

子育て支援

子どもが
少ない

年間50～60
(子ども生ま
れる数)

医療費タダ

託児環境

習い事

保育士の不足

高齢者福祉

独居老人が
多い

誰が独居か
わからない

介護施設問題

給与が少ない

自覚がない

保健・医療

医者不足

乳がん検診
の年齢を
下げたい

健診率が低い

自営業者の
特定健診率
が低い

障がい者（児）福祉

障がい者雇用

理想

子育て支援

子どもの
遊ぶ場所
が欲しい

一時託児施設
の設置

生涯学習セン
ターでの子供
向けの習い事

医療費をすっ
とタダ

保健・医療

医療費の助成

高齢者福祉

介護士の給与
を上げること

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

高齢者福祉

IP電話で確認

独居老人の
津波対策

自治会の
声掛け

地域福祉

行政と自治会
が協力して
災害対策

保健・医療

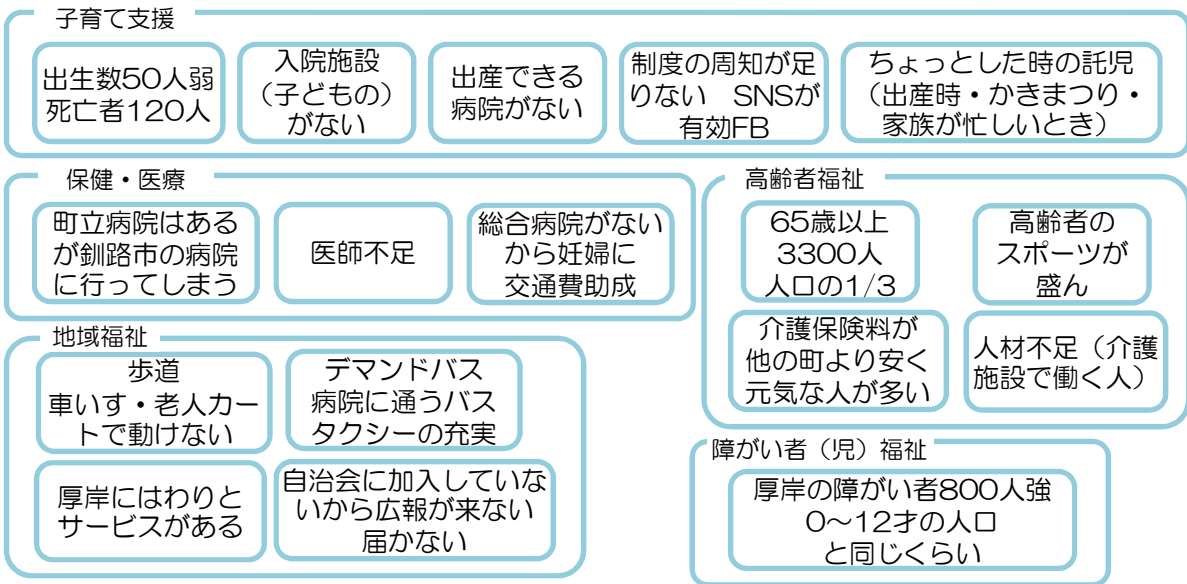
人間ドッグの
助成

A班のまとめ

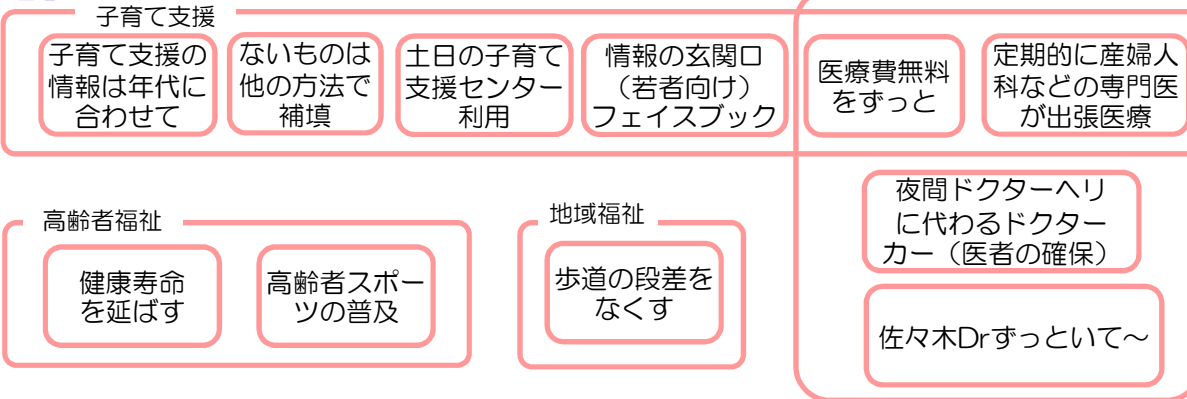
子どもが習い事を受けられる場所が少ない、育児環境をもっと改善できるのではないかな。そこで、一時託児施設や生涯学習センターで子どもが習い事を受けられるような事業を進めてはどうかという意見が挙がった。高齢者福祉に関しては、介護施設が少ない、独居老人が多い、介護職員の給料が安いなどの現状がある。そこで、介護職員の給与を上げてはどうか。また、IP電話を利用した独居高齢者の安否確認や、自治会と連携した災害時の支援ができないかという意見が挙がった。医療については、高校生まで医療費無償はありがたい、検診率が低い、医者が少ない、乳がん検診の年齢をもっと下げてもいいんじゃないかという意見が出た。理想として、医療費がずっと無償であれば良い。人間ドッグの助成をしてはという意見が挙がった。

B班

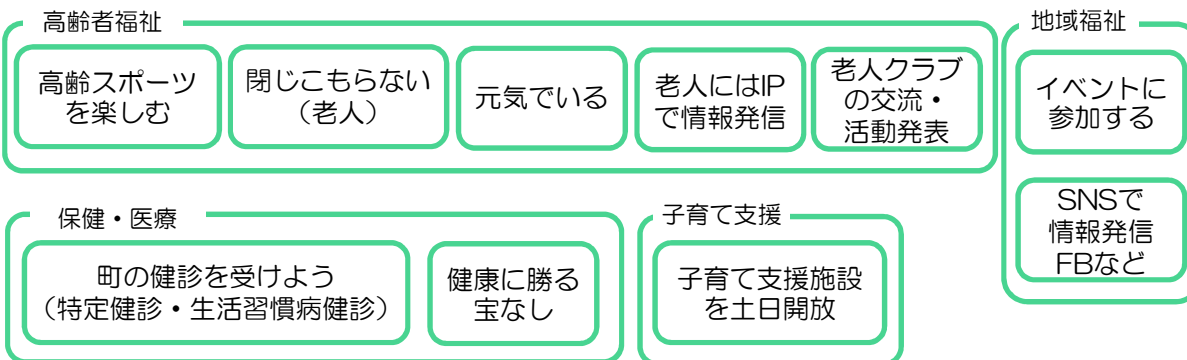
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



B班のまとめ

町には出産に対応できる病院がないものの、妊産婦に対する助成が大きいなど、支援が行き届いているという意見が挙がった。この一方で、サービスの周知が不足している現状もある。周知に関しては、何かと「HPを見てください」と言われることが多いが、高齢になるとHPを見るのは困難である。その反面、若者はSNSを活用すべきだというような意見を持っており、世代ごとに有効な手法の違いを感じる。また、自治会に加入していないと広報あっけしがもらえないという声をよく聞くが、住民は町の情報を知っておくべきだと感じる。こうした中で、高齢者にはIP電話、若者にはSNSで情報発信をしていくなどの工夫が必要である。福祉のことを考えた総括としては、「健康に勝る宝なし」である。

C班

現状や実体験

地域福祉

気軽に相談
できる場所がない

社協は
やさしい

役場は
いいいち

厚岸は福祉が
遅れている

心配りが足り
ない

障がい者（児）福祉

障がい者のグルー
プホームがない

障がいに目が向
けられていない

障がい者に
やさしい町
ではない

働く場所
が無い

厚岸に住みたいが
働く場所がないので
町を離れる

ノーマライゼーションの町を
宣言したが進んでいない

子育てと高齢者福祉には手厚く支
援があるが、それに比べると障が
い者福祉に目が向けられていない

子育て支援

子供を
連れて行くの
に不便

土日に子供を
連れて行く
場所がない

放課後デイス
サービス利用者が増
えている

土日でも子供
を預けられる
施設が欲しい

高齢者福祉

老人が
買物するのに
不便

不公平

保健・医療

医師が
もう少し長く
居て欲しい

居宅医療が受
けられない

理想

障がい者（児）福祉

障がい者グルー
プホームが欲しい

働く場所を企業が
受け皿を増やす

子育て支援

子育て支援
センターの
土日の開放

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

地域福祉

出来ることは
やってみる

行政と団体が連携し
て問題を解決すべき

弱者を見守る
体制をつくる

障がい者（児）福祉

雇用の仲介窓口

その他

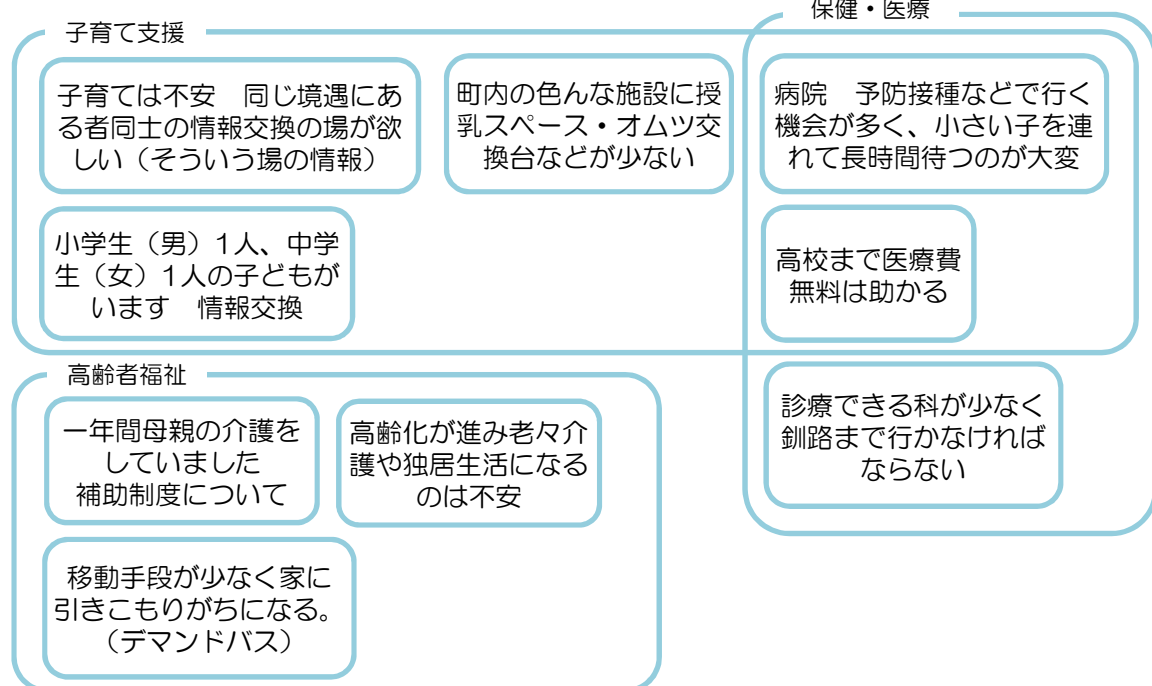
各種制度の広報
を充実させる

C班のまとめ

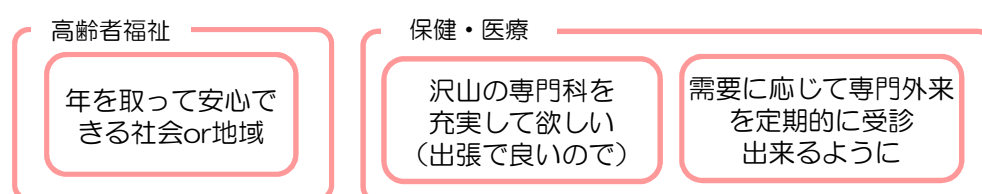
子育てについては、土日に遊びに行ける場所や子どもを預けられる場所がない。さらに、町内の施設に授乳スペース等がないという意見が挙がった。障害者（児）福祉に関しては、グループホームがない、障害者（児）に対する支え合いの精神があまり町民から感じられない、働く場所がないなど、障害者（児）に住みづらい町のように感じるという意見が挙がった。医療では、在宅医療がない、医者が短い期間で代わってしまうという意見が挙がった。理想は、こうした現状の裏返しといえる。こうした中で、社会的弱者を見守ることなどは、町民ができることだ。また、町民が主体的に福祉や医療の情報を受け取るべきだ。企業や関係団体との連携により、障害者雇用を創出していけたら良いという意見が挙がった。

D班

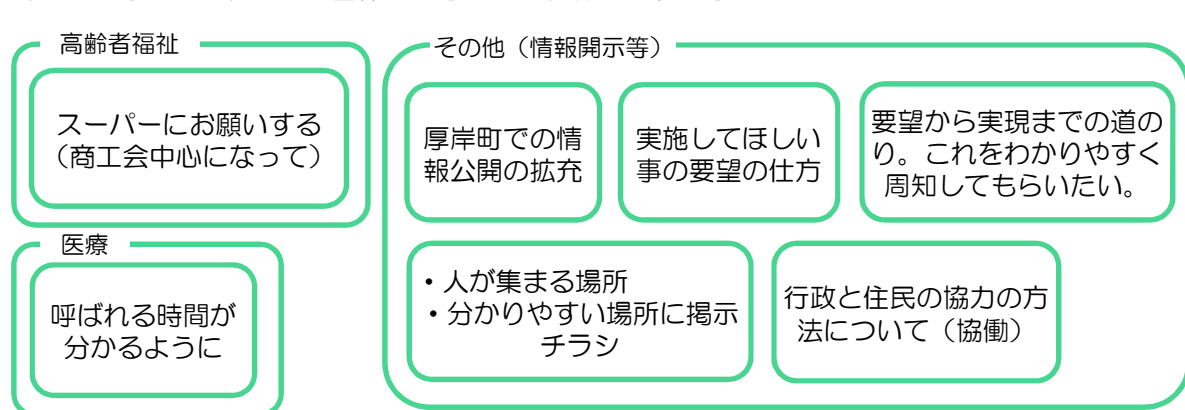
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

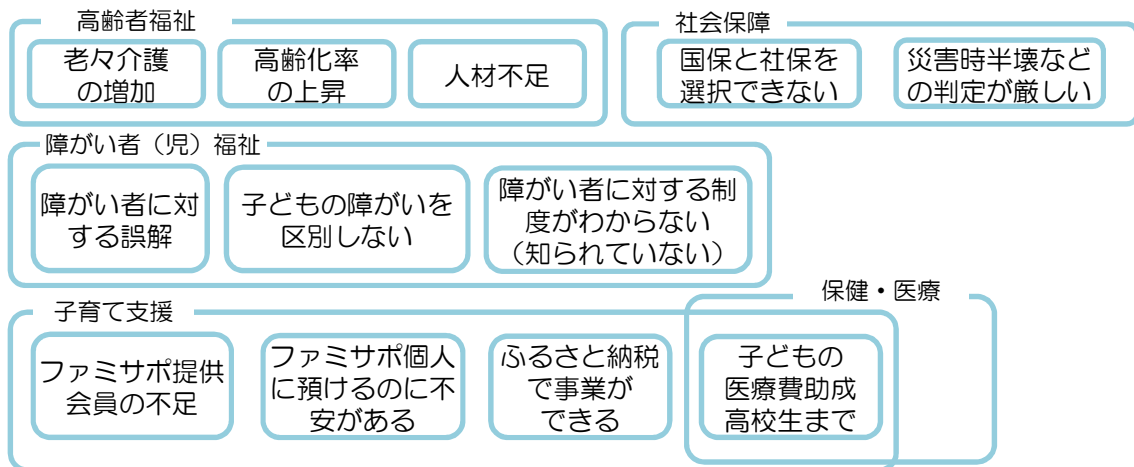


D班のまとめ

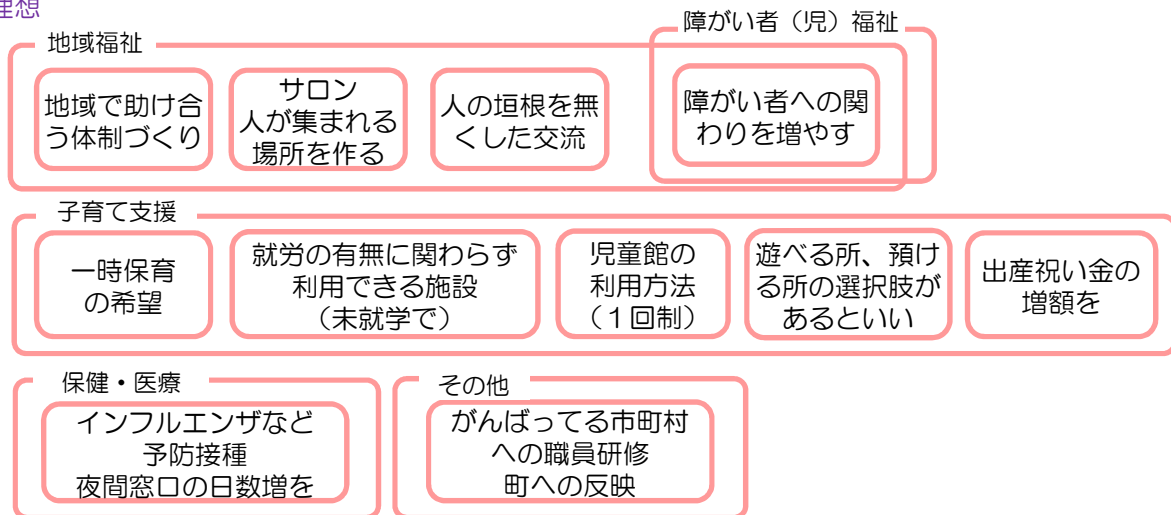
子育て支援については、町の施設に授乳スペースやおむつ交換台が少ないと感じるものの、こうした意見をどこに伝えるべきかわからないという意見が挙がった。医療については、診察の待ち時間が長いため、呼ばれる時間がわかると良い。また、週に1回でも構わないので、もう少し診療科が増えると良いという意見があった。情報周知としては、高齢者は、HPやSNSの利用の仕方がわからず、福祉サービス等の情報を得るのが難しい。そこで、街なかの看板等を積極的に使用して情報を開示したらよいという意見が挙がった。行政中心で物事を進めると町民が続かないため、それぞれの立場から活躍できることを考えていく必要がある。また、歩み寄りや他の市町村との競争意識を住民が持てば、より良いまちづくりにつながると感じる。

E班

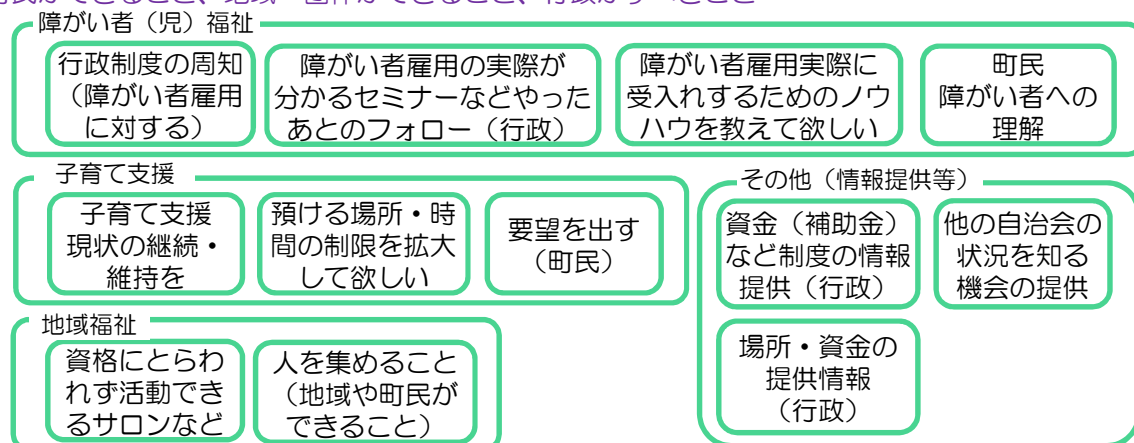
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



E班のまとめ

高齢者福祉では、高齢化率の上昇による老老介護の増加という現状がある。障害者（児）福祉では、障害者（児）に対する誤解があったり、障害者（児）に対する制度がわからなかったりという現状がある。子育て支援については、ファミサポの会員不足、ファミサポの利用に不安があるという意見が挙がった。理想としては、地域の人々が集うサロンを創設し、地域交流の促進を図る。障害者（児）に関しては、町民と関わる機会を増やし理解を促進する。子育て支援については、ファミサポだけでなく一時保育施設などもあればよいという意見があった。児童館や子育て支援センターの職員に、他の地域における先進的な取組等を視察していただき、町にフィードバックしてもらいたい。行政には、そうした職員の方々への支援をお願いしたい。

第2回ワークショップのまとめ

第2回は、保健・医療、地域福祉、高齢者福祉、障がい者（児）福祉、子育て支援、社会保障の分野についてワークショップを開催しました。人口減少や高齢化が進む中で、町民の福祉ニーズは複雑化・多様化しています。行政だけでなく、町民や地域団体などのさまざまな主体が協力し、こうした地域課題を解決していくことが求められています。

第2回ワークショップのまとめは、以下のとおりです。

つながりの強化による支え合い体制の構築

独居高齢者や、子育て中の母親、障害者（児）など、地域において支援を必要とする人々は大勢いると、各班の意見で上げられています。こうした支援を必要とする人々の福祉ニーズに対応していくためにも、地域のつながりを強化し、住民主体の支え合いのまちづくりを進めていくことが課題です。その具体的な手段として、さまざまな立場の人が垣根なく交流を図れるサロン事業による、つながりの創出が求められています。

また、日々の生活の中で住民同士が見守りや支え合いを実践できるよう、障害に関する知識の普及・啓発など、福祉意識の醸成を図ることも必要です。

福祉に関する情報の効果的な周知

福祉サービスに関する情報が住民に行き届いておらず、支援を必要とする人々がサービスの利用に至れていないケースがあるという意見が上げられました。こうした中で、例えば、高齢者に対してはIP電話、若者に対してはSNSを利用するなど、どうしたら情報が届くのかを検討し、効果的な情報の周知を図っていくことが求められています。

参画・協働でみんなに優しいまちづくり

障害者の雇用に関することや、独居高齢者の災害時支援に関すること、子育て支援の充実に向けた町の施設に対する改修要望、医療体制の充実を求める意見など、日頃の生活の中で感じるさまざまな課題が挙げられました。この一方で、気軽に相談できる場所がない。行政に対して要望する手順がわからないという意見も見られました。

今後は、住民と行政とが、こうした課題を共有し、参画・協働でみんなに優しいまちづくりを進めていくことが求められています。このためにも、気軽に生活課題について相談できる体制の整備や、課題解決に向けた手順等を住民に示していくこと、行政と住民の意見交換の機会創出などを行うことが必要です。

みんなで考える厚岸町の10年後
夢が広がるまちづくりワークショップ
結果報告書（第2回）

発行年月：平成31年2月

発 行：厚岸町

編 集：厚岸町総合計画策定委員会（まちづくり推進課 企画調整係）

住 所：〒088-1192 厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地

電 話：0153-52-3131

F A X：0153-52-3138